

# 第51回インナーゼミナール大会

## 研究計画書

ゼミ名	寺尾ゼミ	チーム名	寺尾ゼミ 18期生《バズ・ライトイヤー》
タイトル	なぜ流行は繰り返されるのか		
テーマ群	a) 理論・情報		
メンバー	角元 七海・川田 拓真・河村 友貴・北原 侑弥・木綿 留唯・清水 葉月・多田 明日葵 田中 美羽・田中 萌華・中坂 友哉・中谷 理貴・西山 将暉・西山 練・判田 直也 藤岡 加奈未・藤波 久乃・本長 夏穂・前田 紗英・村尾 洸輔・善村 龍真		
研究計画内容	<p><b>【研究の背景と目的】</b></p> <p>最先端のファッション、話題の音楽、インフルエンサー…いつの世にも流行しているものが存在し、それらは少なからず私たちの行動に影響を与えているように思われる。現在では、「流行る（はやる）」という語は「バズる」と名称を変え、インターネット／SNSが媒介することによって、「流行」が拡散する範囲と速度は以前と比較して桁違いに大きいものとなっている。他方で、2021年の現在、1980年代の文化が再興していることが話題となっているように、「流行」には繰り返されるという側面がある。「流行」はいったいどのような原因で生まれ、そして消滅するのか、あるいはまた、「流行」はいかなる仕組みによって繰り返されるのか——これが、私たちの抱いた疑問である。</p> <p><b>【研究の対象と方法】</b></p> <p>「流行」とは「世間に広く行われ、用いられること」である。「流行」の発生・消滅のメカニズムには未解明な部分が少ないが、「流行」には、(1) 人々の模倣と差別化の欲求を同時に満たす、(2) 集団をつくりながら、同時に区別する という 2 つの大きな特徴がある。私たちは、「流行」の対象として服飾や音楽などを取り上げて、先述の 2 つの特徴に着目しながら、「流行」が発生・消滅するメカニズムを明らかにする。さらに私たちは、「流行」においては人々の模倣と差別化の欲求が満たされることを前提として、「流行」が繰り返されるメカニズムについて、消費行動の分析や経済予測への応用までを視野に入れた考察を行うこととしたい。</p> <p><b>【期待される成果】</b></p> <p>「流行」の発生・消滅と循環のメカニズムに関しては、社会学的な研究に比べると経済学的な研究の蓄積は相対的に少ないが、経済現象として流行現象をとらえることができた場合には、人々の自発的な意思決定（すなわち、「流行に乗ること」のメリットとデメリット、「流行に乗らないこと」のメリットとデメリット）に着目した定性的な分析の結果として、「模倣と差別化のあいだのトレードオフ」と流行の発生・消滅ならびに循環との関係が明らかにされることが期待される。</p>		